

この人にインタビュー

加藤誠氏

株式会社小田井商店
代表取締役社長

生年月日：昭和44年5月18日（49歳）
血液型：O型
家族：妻、長女、次女、長男



インタビュー

- 担当副会長 館林 慶二
- 広報委員長 大脇 慶二
- 広報副委員長 松井 啓至

I N T E R V I E W

本日は、全国青年の集い岐阜大会が終わったばかりの加藤誠氏を、会社にお尋ねしました。まずは、御社の概要についてお伺いします。

加藤 陶磁器の製造・販売・卸をやっていて、いわゆる“なんでも陶器屋さん”です。事業の一つは、洋食器をつくることです。美濃焼伝統の技術の中に欧州の作風を取り入れた作品を創っています。土を成形し、絵付けをして、焼成するところまで、すべてこの敷地内で行っています。多治見の中心地で土からかたち作るところまでやっている事業所は大変少なくなりましたが、弊社は細々と続けています。

— 土から製品になるまで一貫生産 —

加藤 今陶器業界は大量生産で作るものは分業が進んでいます。かたちを作るだけ、かたちを作るための道具を作るだけなど、細かく分かれています。その工程のうちの一つが廃業されると商品の供給が続かなくなってしまうことがあります。弊社には製造

工程のすべてがあるので、もうこの商品ができませんということがありません。この点は商社として生き残っていく強みかなと思っています。もう一つの事業は、卸販売です。製造メーカーさんから仕入れたものをお客様に販売しています。主に徳利やぐい呑みなどの酒器を扱っています。酒造メーカーの名入り販促品などです。

小田井商店の名前の由来は？

加藤 よく尋ねられるのですが、元々小田井家が家業として陶器関係の仕事をしていました。その小田井家が加藤さんと結婚したのですが、跡継ぎが早くに亡くなったりして途絶えてしまいました。私の生まれたころには「小田井はな」という小田井家最後のおばあさんがおりました。父が小田井家の出どころを調べ、どうやら軽井沢あたりではないだろうかとのことでした。名古屋に小田井とつく地名がありますがそちらではないようです。



— 創業当時はお歯黒をつくってました —

加藤 会社設立は昭和24年ですので、私で3代目です。小田井家、また加藤家の創業当時である明治のころには、陶器の歯（入れ歯）を作っていたそうです。練りこみの土で、黒い土を焼成してそれを入れ歯、お歯黒にしたと聞いています。今でも歯の木型が残っています。

「全国青年の集い」岐阜大会を終えられての感想は？

加藤 第32回「全国青年の集い」岐阜大会が開催され、大会会長を務めさせていただきました。そもそも私が大会会長を務めることになったいきさつからお話したいと思います。平成27年の年末頃、平成30年に青年部会県連会長の役が多治見に回ってくるのがわかりました。全国大会の大会会長も兼ねることから、この大役は岐阜市内の単位会に委ねる方向に話は傾いていました。そんな時、当時部会長の松本さんから県下の会議に一緒に来てくれと言われ、ついて行ったところ、紛糾する会議のなか「多治見が大会会長をやります。多治見が主導してやりますから大丈夫です。コイツがいますから！」と仰っていただきました。ありがたいことにそうして大役を引き受けることになりました。

役をいただきましたが、当然自身が全部やることはできません。県下7単位会青年部会のメンバーの皆様それぞれ役割を振り分けさせていただきました。皆様がそれぞれの役割を全うしてくださったお陰で、岐阜大会を盛況のうちに無事終えることができました。この場をお借りして心より御礼を申し上げます。また、私はこれから皆さんに恩返しをしていかなくてはならないと思っています。

— 会員増強300%達成 267名の新入会員 —

加藤 今回式典の中で会員増強の表彰がありました。親会の方々はじめ皆様のお陰で、6部門のうち3部門を岐阜県連と多治見法人会で取らせていただきました。本当にありがたかったです。が、ありがたただけで終わらせてはいけないと思っています。今回の会員増強で当会青年部会は300%を達成し、267名の新入会員を得ました。

その方たちに「法人会に入って良かった。忙しいからそう行けんけど、一度行ったら会費の元が取れたわ」と言っていただけのような活動を今後していかなければならないと強く感じています。

大会を通じて全国の方と知り合えて分かったことは、

地方によって行っていることが違うということです。規模の大きな単位会では大々的にお金を使って事業を行っていますが、一方で少ない人数と予算で工夫してやっているところもありました。例えば租税教室の際に1枚の紙を使って宿題を出したとします。そうすれば家に持ち帰って親御さんと相談しますね。1クラス30人で終わる租税教室が、60人にも90人にも広がるわけです。紙1枚でも仕組みを整え、使い方を工夫すればもっと大きな波及効果を得ることが出来るということを学びました。

尊敬する人、座右の銘などありますか？

加藤 今年は織田信長オシで岐阜大会をやらせていただきました。大会スローガンに「未来を切り開く先駆けとなれ」とありますが、信長の高い先見性と強いリーダーシップには共感を覚えます。法人会において青年部会は活動の推進力となる、「エンジンのような存在」でありたいと願っています。

— 目的を意識すれば、辛いことでも やりがいが見えてくる —

加藤 ドラッグアの「マネジメント」に載っている「三人の石切り工」の話です。

三人の石切り工に何をしているか尋ねたところ、一人目は「ここで石を切って稼いでいる」といい、二人目は「石を切る技術が世界一になりたい」といい、三人目は「人々の心の安らぎとなる教会を建てている」と答えました。同じことをしていても、三人の心持が全く違います。何事をするにも、目の前にことに捕らわれず、先にある目的を意識して行えたらいいなあと思います。そう思えば、やらされ仕事などないと思います。

趣味はありますか？

加藤 料理を作るのが好きです。休みの日にはたいい朝から晩までご飯を作っています。あまり外に向かって言うと家内におこられます（笑）。からすみから正月用のいくらの仕込み、作り置きのおかずなど、これから年末にかけて冷凍庫を一杯にするようがんばります（くれぐれもオフレコをお願いします・笑）。

本日はありがとうございました。

今後も若い力で多治見法人会を牽引して下さることを期待しております。

